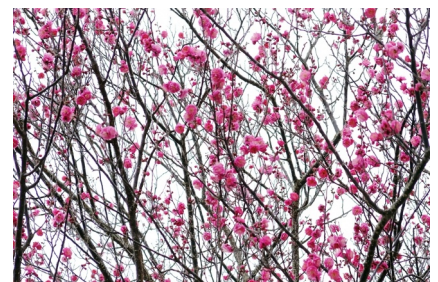
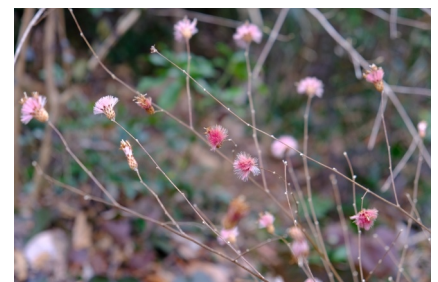


宝篋山(ほうきょうさん461m)

今年の登り初めは筑波山近くの宝篋山(461m)。地元では遠足でも登るという人気の山だ。今回の参加者はゲスト7名を含む28名。25名超えということで大型バスとなった。ドライバーは今回初めての鈴木清人さん◆快晴のもと、圏央道を走っているとバスからは雪をかぶった日光連山や赤城山が遠望でき、正面には筑波山も見えだした。常総ICで高速をおり、294号線(常総バイパス)から56線に入ると筑波山は一層大きくなり、アンテナ塔が目印の宝篋山も見えてきた◆小田休憩所に到着。さっそく小田城コースの登山道を進むと20体ほどの朽ちかけた古い石仏が並んでいた。道は細いが中世からの古い道らしい。やがて要害山展望所となり、丸太を組んだ2層の展望櫓があった。ここからは南側の展望がよく、眼下に小は田城跡の全容がよく見える。平坦に近い山道がつづき、富岡山頂も標識がないと通り過ぎてしまいそうだったが、堂平からはやや急な登りとなる。途中で硯石と名札の付いた石があり、平らな表面は登山者が繰り返し擦ったことで、薬研状に削れていた◆やがて山頂に到着。そこには山名の由来になった宝篋印塔や大きなアンテナ塔、それに忍性像などがある。この宝篋印塔は鎌倉時代のものだという。展望もよく、北側には筑波山の雄姿、南側には霞ヶ浦が広がっていた。残念ながら薄雲で富士山は見えなかったがスカイツリーは何とか確認できた◆山頂で昼食をとった後は山の東側を巡る常願寺コースを下る。下りといっても2度ほど登りもあったが、尖浅間山からはシダ類の多い小さな沢沿いの緩やかな道だ。ふもとに到着すると、そこには素晴らしい人里が広がっていた。まさに自然と古くからの人々の営みの中で生まれた豊かな田園風景で、見ていて飽きない。その人里の背景には今日登った宝篋山が見守っているようだ◆帰りのバスは途中で「道の駅常総」に立ち寄る。メロンパンで有名ないろいろなスープが無料で試飲でき、何だかそちらの方が印象深い。天気予報では今日から寒くなると報じていたが、寒さは感じず天候にも恵まれ穏やかな山行であった。(南雲記)



北市民セ7:00→常総IC8:20→宝篋山小田休憩所駐車場9:00着9:20発→要害展望所9:50→富岡山頂10:00→硯石10:50→新寺コース分岐点11:00→宝篋山山頂11:25(昼食)12:00→尖浅間山12:20→小田休憩所13:45→筑波山麓小田駐車場14:00バス発14:05→道の駅常総14:45(休30)→菖蒲PA(休10)→鶴ヶ島JCT16:20→北市民セ16:40 @3,000